いわて高等教育コンソーシアム
The Iwate Higher Education Consortium

第6号
December 2011

http://www.ihatov-u.jp/

NEWS LETTER

Index

ご挨拶 1
『第2ステージを迎えた いわて高等教育コンソーシアム』

稼働期を迎えた いわて高等教育コンソーシアムの新体制 2〜3

いわて高等教育コンソーシアム学長宣言 4
『岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！』

学長宣言の事業例 5

トピックス 6〜7
・いわて学
・岩手医科大学特別講義配信
・岩手県と学生との意見交換
・公開セミナー「平泉文化と死者への憶い」
・FD合宿研修会
・学生による地域づくり活動in八幡平市

平成23年度下半期の計画・編集後記 8

ご挨拶

第2ステージを迎えた いわて高等教育コンソーシアム

岩手大学学長
藤井克己

いわて高等教育コンソーシアムは平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業に「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進」が採択されたのを契機に、前身である「いわて5大学学長会議」を発展的に継承した形で設立されました。

いわて高等教育コンソーシアムは10年間の将来目標として「地域の中核を担う人材の育成」、「県内大学進学率の向上」、「地域社会の活性化」の3つを掲げるとともに、始動期、稼働期、展開期の3つの段階を経て、5つの大学の特色を活かしたバーチャル大学「イーハトーブ大学」の始動を目指すものです。

文部科学省の補助事業期間であった平成20〜22年度は始動期と位置づけ、イーハトーブキャンパスの設立と整備を進めるためにWebを活用した授業学習支援システム「アイアシスタント」や、遠隔講義を可能にするためにTV会議システムなどを導入するとともに、連携大学の教員が参加するFD合宿研修等を通じて教育力の向上を目指してきました。

また、学生の地域参加プロジェクトを通じて、地域が抱えている問題を学生の自由な発想や行動力で解決を行うべく公募型プログラムも実施し、学生が地域に根ざした活動も積極的に取り組んでおります。

このような始動期を経て、平成23年度から25年度は「教育力の向上と知の拠点形成」を重点とする稼働期に移りました。

始動期から稼働期に移行する本年3月11日に東日本大震災が発生、岩手県も甚大な被害を受け、半年経過した現在も残念ながら完全な復旧までには至っておりません。

1000年に一度と言われている今回の津波による大震災では、被災県の岩手にある高等教育機関の連携組織として、いわて高等教育コンソーシアムは、「地域の中核を担う人材の育成」、「県内大学進学率の向上」、「地域社会の活性化」という3つの設立目的を再度確認し、後述の「学長宣言」を発出したところですが、さらに5大学の特色を最大限に生かしつつ、地域の復興に努めていきたいと考えております。

稼働期を迎えたいわて高等教育コンソーシアムの新体制

いわて高等教育コンソーシアムは、地域の中核を担う人材の育成を柱に、①教育環境の基盤整備、②教育力の向上、③知の拠点形成、④大学進学率の向上、⑤地域の活性化にかかわる20の事業を始動期（平成20～22年度）に取り組んできましたが、共通キャンパスの整備、Webを活用した授業学習支援システムの導入、遠隔講義（ＴＶ会議）システムの導入など、始動期に整備された事業もあり、稼働期（平成23年度～）を迎えた今年度から、新たな実施体制でスタートいたしました。

具体的には、これまでの取組内容によって、7つのプロジェクト委員会を4つの推進委員会（単位互換・高大連携推進委員会、ＦＤ・ＳＤ連携推進委員会、地域研究推進委員会、地域人材育成推進委員会）に再編すると

【今まで（平成20～22年度）の実施体制】

いわて高等教育コンソーシアム実施体制

理事会

運営委員会

教育研究環境基盤整備等プロジェクト委員会

- 共通キャンパスの整備
- Webを活用した授業学習支援システムの導入
- いわて情報ハイウェイを活用したネットワーク構築
- 遠隔講義（TV会議）システムの構築
- ｅラーニングシステムの構築
- いわて情報ハイウェイを活用した講義の配信
- 共通キャンパスを活用した公開事業の実施
- 拡大版ウィンターセッションの実施

人材育成・地域文化拠点形成プロジェクト委員会

- 地域人材育成（岩手学）講座の開設
- 特色ある講義の充実
- 地域文化（平泉、賢治、言語など）研究の推進

SDプロジェクト委員会

- SD研修の共同実施

FDプロジェクト委員会

- FD研修の共同実施

教育の国際化プロジェクト委員会

- 留学生教育の充実
- 教育の国際化
- 東アジアとの連携強化

地域の活性化プロジェクト委員会

- スポーツユニオン、シニアカレッジ等の実施
- 生涯学習の場の提供

地域課題解決プロジェクト委員会

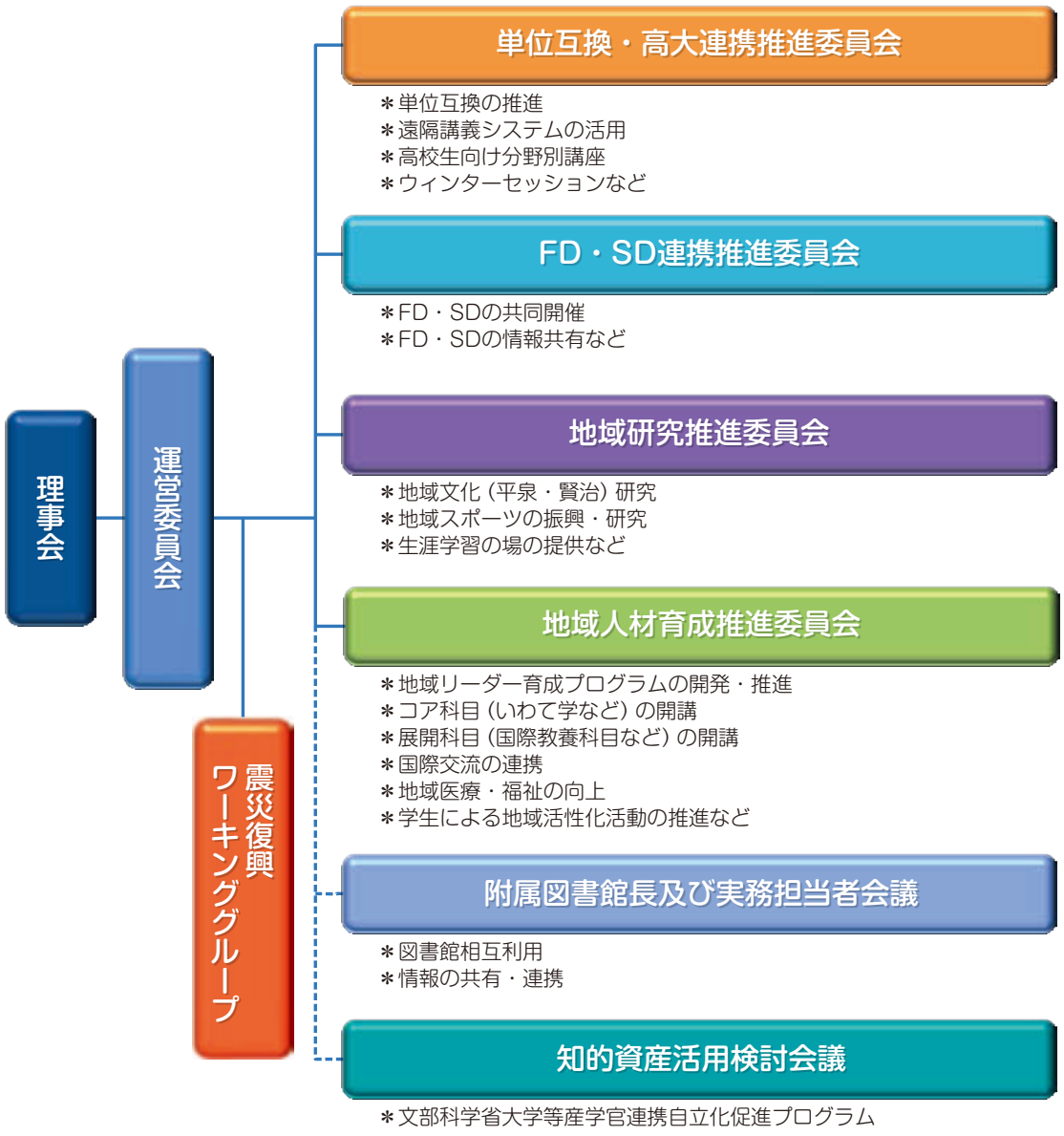
- 学生の地域参加プロジェクトの実施
- 地域医療･福祉の向上を目指す研究の推進

ともに、2つの関連会議（附属図書館長及び実務担当者会議、知的資産活用検討会議）を加え、連携大学の特色を生かしつつ、より効果的に活動できるようにしました。

また、4つの推進委員会と2つの関連会議の上に各推進委員会委員長等が構成員となる運営委員会、さらには各連携大学長が構成員となる理事会を設置し、5大学がそれぞれ責任を持って連携する体制となっています。

なお、運営委員会内に震災復興ワーキングを設置し、今後、いわて高等教育コンソーシアムとして東日本大震災からの復旧・復興活動を推進していく計画です。

いわて高等教育コンソーシアムの新体制



平成23年3月11日発生しました東日本大震災は、東北地方に甚大な被害を及ぼしました。
過去に三陸地震津波やチリ地震津波を経験して、防潮堤の整備や官民挙げて地域防災活動に取り組んできた岩手県にとっても、今回の大震災は想定外の規模のものとなりました。
いわて高等教育コンソーシアムの連携大学は、震災直後から、各大学の特色を活かした支援活動を行ってきました。
そして、今、いわて高等教育コンソーシアムは、「連携」という強いつながりのもと、岩手県が今回の震災を乗り越え復興を果たすため、コンソーシアム設立の趣旨を再度確認し、「岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！」をスローガンに取り組んでいきます。

いわて高等教育コンソーシアム学長宣言

岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！

３月11日に発生したマグニチュード９という大地震とその後の大津波により、岩手県では4,500人を超える方が亡くなられ、また２千人以上の方が依然として行方不明となっています。私たちは、いわて高等教育コンソーシアムを構成する５つの大学を代表して、この地震と津波で亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

いわて高等教育コンソーシアムは、①大学進学率の向上、②地域社会への貢献、③地域の中核を担う人材育成、の３つを設立目的として、Webを活用した教育基盤の整備や５大学の共通科目「いわて学」の開講、学生による地域課題解決プロジェクトの推進などに取り組んできました。いま、震災からの復興という課題を前に、私たちは改めてコンソーシアムが３つの設立目的に即して力を尽くしていかねばならないと決意を新たにしています。

何よりも被災により大学進学を断念する高校生が出ないように沿岸地域の高校と連携して取り組みます。また、被災地の復興に対しては、学生ボランティアの派遣や専門家による調査研究、提言の活動など、高等教育機関としての役割を積極的に担って行きます。さらに長期間にわたる復興を担う人材を育成する教育プログラムの開発に連携して取り組みます。

いわて高等教育コンソーシアムは、分野の異なる学部をもつ５大学が自らの特徴を最大限に生かしつつ、連携の力で「地域の知の拠点」を目指すものです。その意味で、今回の震災は、まさにコンソーシアムの真価を問うものとして、私たちはそれぞれの特徴を生かしながら連携の力で復興を担う人材育成を推進していきます。

平成23年6月15日

岩手大学長　藤井克己
岩手県立大学長　中村慶久
岩手医科大学長　小川　彰
富士大学長　藤原隆男
盛岡大学長　望月善次

6月15日の学長宣言「岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！」をうけて、運営委員会では震災復興ワーキングを立ち上げ、「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域復興を担う中核的人材育成プラン事業例」の**「Ⅰ. 大学進学事業」、「Ⅱ. 中核的人材育成事業」、「Ⅲ. 地域貢献事業」**の実現を目指していきます。

いわて高等教育コンソーシアムにおける地域復興を担う中核的人材育成プラン　事業例

Ⅰ. 大学進学事業

1. テレビ会議システムを活用した沿岸地域の高校生への進学案内
2. 大学生ボランティアによる沿岸地域の高校生への学習指導

Ⅱ. 中核的人材育成事業

1. 震災復興の視点を取り入れた「いわて学」（地域人材育成）の展開
2. 地域課題解決プロジェクトのテーマを「震災復興」として公募
3. ボランティア論・リーダー論等の授業開発
4. 被災地の自治体職員、教員の経験を共有するワークショップの開発
5. 被災地の学校で高校生・大学生がともに学ぶワークショップの開発
6. コーディネート力を備えた人材育成のプログラムを３年間で開発

Ⅲ. 地域貢献事業

1. 専門家の派遣による調査研究
2. 調査研究に基づく提言

いわて高等教育コンソーシアム
The Iwate Higher Education Consortium

いわて学

今年度の5大学共通授業「いわて学」前期は“いわての地域特性を知り可能性を探る”を授業テーマに5月21日（土）から7月16日（土）までの15回開講、昨年度の46名を大きく上回る107名が履修しました。

講師は連携大学内の教員の他、県立博物館学芸員、サケ研究家、商品開発コーディネータなど多様な職種の外部講師を招き、岩手の歴史・自然環境・暮らし・農業・食材・伝統工芸等の講義から「いわて」の魅力やこれからの可能性を探りました。受講者からは「岩手の様々な面を学べとても楽しかった」「岩手出身だが、知らないことも多々あり、新たな魅力に気付けた」などの感想が寄せられました。

なお、後期は“平泉から知るいわて”を授業テーマに10月15日（土）から開講しています。

期日	テーマ	講師
5月21日(土)	人物から知るいわて	岩手県立大学　佐々木民夫
	グループワークで考えるいわての地域特性	岩手県立大学　豊島正幸
6月4日(土)	統計から知るいわて　※グループワーク	岩手県立大学　豊島正幸
	農業から知るいわて	岩手大学　岡田益己
6月11日(土)	歴史から知るいわてA	盛岡大学　熊谷常正
	歴史から知るいわてB	盛岡大学　熊谷常正
6月18日(土)	博物館から知るいわて　※実地講義	岩手県立博物館学芸員
6月25日(土)	自然環境から知るいわて（いわての山・川・海）	岩手県立大学　豊島正幸
	自然環境から知るいわて（鮭）	サケ研究家　渡辺敞嗣
7月9日(土)	暮らしから知るいわて（いわての保健）	岩手県立大学　松川久美子
	暮らしから知るいわて（いわて産食材の魅力とその活用）	(株)パイロットフィッシュ 五日市知香
7月16日(土)	南部鉄器から知るいわて（南部鉄器生産メーカー岩鋳での実地講義）	(株)岩鋳職員
	いわての可能性を探る　※グループワーク	岩手県立大学　佐々木民夫 岩手県立大学　豊島正幸

講義する岩手県立大学・松川講師

学生の質問に答える五日市氏

岩手医科大学特別講義配信

6月29日（水）に岩手医科大学共通教育センターと医・歯・薬学部が共同で企画運営する平成23年度医・歯・薬学部合同特別講義が行われました。

今年度第1回目となる今回は、宮城県栗原市の圓鏡寺の菅原廣成住職を講師に迎え、「死が照らす命のつながり」と題した講義を行いました。

菅原住職は、生命と死について、具体的な事例を基に講義を行い、受講者にとっても生命観や今後の生き方についても考えさせられる時間となりました。

本講義は、医学、歯学、薬学を学ぶ初学者に共通して求められる人間性を養うことを目的に実施するとともに、連携大学の学生に一般社会における医療と科学への関心を高めるため、TV会議システムを活用し連携大学に配信されました。

岩手医科大学で
講義を行う菅原住職

遠隔講義システムで受信する
岩手大学会場

復興計画で岩手県と学生が意見交換

岩手県は、今後の震災復興に関する計画として策定した「岩手県東日本大震災津波復興基本計画案」に県民の声を反映させるため、地域ごとの説明会を計画しました。

その一環として若者の声を反映させるため、いわて高等教育コンソーシアムの学生と意見交換会を開催しました。

岩手県復興局企画課の小野特命課長から県の復興計画案が説明された後、参加した学生から、被災地でのボランティア活動を行った実体験を通じ、ボランティアをまとめるコーディネーターの必要性が訴えられました。

また、参加した学生の中には被災地出身の学生もみられ、現在の被災地で生活する家族の状況を踏まえ、「一日も早い復旧・復興の願い」を訴えるとともに、花巻市で高齢者の心のケアに関わっている学生から「沿岸地区の復興に加えて、全県的な視野で計画を進める必要性」に関する提案がありました。

基本計画案を説明する小野岩手県復興局
企画課特命課長（岩手大学会場）

岩手県担当者と意見交換を行う参加学生
（富士大学会場）

公開セミナー「平泉文化と死者への憶い」

8月6日（土）に、平泉文化遺産センターホールを会場に東京大学グローバルCOE「死生学の展開と組織化」と共催で、公開セミナー「平泉文化と死者への憶い」を開催しました。

セミナー冒頭、主催者、受講者とも今回の東日本大震災犠牲者への黙とうを行い、第一部は、昨年度の大河ドラマ「竜馬伝」において、「竜馬紀行」のBGMを担当したクラシックギターデュオ「いちむじん」による「音楽による癒し　～追悼と再起～」と題した演奏が行われました。

続く第2部では、東京大学大学院人文社会系研究科の佐藤信教授が、「古代の災害と律令国家」と題し、貞観11年の東北における大地震・大津波に対して日本古代の律令国家がどのように対処したかなどを文献を基に講演を行うとともに、第3部のパネルディスカッションでは「生者は死者をどう送ってきたか」をテーマに、盛岡大学文学部長の大石泰夫教授、岩手県立大学看護学部の菊池和子教授、岩手大学教育学部の木村直弘教授をパネラーに迎え、民俗学、看護などの多様な面から、生者から見た死者への対応等について意見交換を行いました。

受講者の中には、親戚が被災した方もおり、「いちむじん」の演奏、学術講演、パネルディスカッションを通じて、死者への憶いについてさまざまなことを考えさせられるセミナーとなりました。

クラシックギターデュオ「いちむじん」の演奏

パネルディスカッション風景

FD合宿研修会開催

8月25日（木）・26日（金）の両日、平成23年度 岩手大学・いわて高等教育コンソーシアム ファカルティ・ディベロップメント合宿研修会を八幡平市の宿泊施設において開催しました。今回の研修会では、「震災復興を担う人材を育成する教育プログラムの開発を連携して取り組む」とする5大学の学長宣言を受け、「地域の復興に貢献できる教育機関の在り方を考える」をテーマに「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域復興を担う中核的人材育成プラン」を具体的に考える機会としました。

始めに、クリーンエネルギー日本一の町として注目されている岩手県葛巻町の前町長　中村哲雄 氏を招き、「地域を率いるリーダーの役割」と題し、リーダーに必要な資質とその役割は何かを自身の経験に基づき基調講演いただきました。その後、7つのグループに分かれ、1. プログラムの骨格作成、2. 授業科目（コア科目）の設計、3. プログラムの構築の手順で、実現可能な地域リーダー育成プログラムを作成しました。各工程ではそれぞれ全体発表・相互評価を行い、その都度真剣で活発な討論が行われ、最終的なプレゼンテーションは、より良いプログラム作成への思いが感じられるものとなりました。

プログラムの骨格について発表するグループ

完成したプログラムを発表する受講生

第2回学生による地域づくり活動in八幡平市

9月17日（土）～19日（月）の三日間、八幡平市舘市地区を会場に「第2回学生による地域づくり活動in八幡平市」を実施しました。

昨年度から引き続き行われた本プロジェクトは、八幡平市をモデル地域として、学生が合宿形式で地域住民と交流しながら、埋もれている地域の魅力を再発見するとともに、その活用方策を地域に提言するという活動です。

今回は、事前に地元の伝統芸能「兄川先祓い」を見学した17名の学生が参加し、八幡平市立舘市生活改善センターを主会場に地域の郷土料理を体験したり、班毎に各地域に出向き調査活動を実施しました。

最終日には、地域住民の方々に班毎に取りまとめた調査結果を基に、提言を行いました。

班	テーマ
1班	「みらいづくりin八幡平」 定住促進のために地域産業（リンドウ、林業）体験の実施
2班	「地域の良さの再発見と観光」 地域資源の活用とグリーン・ツーリズムの実施、地域の魅力のマップ化
3班	「子どもを呼んで地域に活気を!」「掲示板は今?」 子ども向けの体験活動の実施、昨年度設置した掲示板の設置場所等の再検討
4班	「舘市の魅力と地域振興」 舘市ツアーの実施、メディアの活用（ふるさとCM大賞等）による八幡平市内のつながりの強化

地域住民を交えた現地調査

最終日の各班毎に報告会

平成23年度下半期の計画

○いわて学・後期

回	日程		内容	講師	会場	
1	10/15（土）	9:30~11:00	いわて「位置・役割」の変遷	岩手県立大学 佐々木民夫	アイーナ 812	
2		11:15~12:45	グループワークで知るいわて・平泉	岩手県立大学・豊島正幸 盛岡大学・熊谷常正		
3	10/22（土）	9:30~11:00	平泉から知るいわての歴史	盛岡大学 熊谷常正	マリオス 188	公開
4		11:15~12:45	平泉文化と浄土思想	岩手県立大学盛岡短期大学部 誉田慶信		
5	10/29（土）	9:30~11:00	平泉から知るいわての資源（漆）	浄法寺漆産業 松沢卓生	マリオス 188	
6		11:15~12:45	平泉から知るいわての自然（北上川舟運）	NPO法人北上川流域連携協議会 邉見清二		
7 8	11/5（土）	9:00~17:00	実地講義（平泉）	盛岡大学 熊谷常正	平泉	
9	11/12（土）	9:30~10:30	平泉の情報発信と地域振興（仮題）	岩手県南広域振興局職員	アイーナ 812	
10		10:45~12:45	平泉の文化と歴史　＊グループワーク	岩手県立大学・豊島正幸 盛岡大学・熊谷常正		
11	11/19（土）	9:30~11:00	平泉から知るいわての食文化①～いわての食文化と伝承の背景～	岩手大学 菅原悦子	アイーナ 812	公開
12		11:15~12:45	平泉から知るいわての食文化②～岩手県南の餅文化とその伝承活動～	世嬉の一酒造㈱ 佐藤晄僖		
13	11/26（土）	9:30~11:00	平泉から知るいわての民俗・祭り	岩手県立大学盛岡短期大学部 松本博明	アイーナ 812	
14		11:15~12:45		盛岡大学 大石泰夫		
15	12/3（土）	9:30~11:00	まとめ・発表　＊グループワーク	岩手県立大学・豊島正幸 盛岡大学・熊谷常正	アイーナ 812	

○岩手医科大学共通教育センター平成23年度医・歯・薬学部合同特別講義（TV会議システム配信講義）

開講日	講師	講義内容
10月21日(金)	石巻市寄磯診療所・所長 富永忠弘先生	医療とは何か“近代先進病院から僻地医療へ”
11月4日(金)	日本薬学会会頭、(前)国立医薬品食品衛生研究所所長 西島正弘先生	医薬品・食品の安全性を目指すレギュラトリーサイエンス
12月9日(金)	盛岡大学・客員教授 吉丸蓉子先生	限りない人間愛　―岩手医科大学創立者・三田俊次郎の業績―

○平成23年度いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム

開催日 平成24年2月4日（土）　**会場** エスポワールいわて

○平成23年度平泉文化フォーラム

開催日 平成24年2月4日（土）　**会場** 一関文化センター

編集後記

3月11日に発生した東日本大震災は、今まで私達が体験したことのない大災害でした。
岩手県にある高等教育機関のコンソーシアムとして、いわて高等教育コンソーシアムは、この大きな悲しみを被災者と共有し、いわての復興を目的に5つの連携大学の力を合わせて、地域の中核を担う人材育成を目指していきます。
また、「教育力の向上と知の拠点形成」と位置づけた稼働期（平成23～25年度）をより一層充実したものとするため、今年度から新たな運営体制でスタートいたしました。「岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！」を合い言葉に岩手の復興に取り組んでいきますので、ご支援ご協力お願いいたします。

発行連絡先
いわて高等教育コンソーシアム事務局（岩手大学総務企画部総務広報課 内）
〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8　TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014
E-mail：ihatov5@iwate-u.ac.jp　URL：http://www.ihatov-u.jp/

構成大学
岩手大学 http://www.iwate-u.ac.jp/
岩手県立大学 http://www.iwate-pu.ac.jp/
岩手医科大学 http://www.iwate-med.ac.jp/
富士大学 http://www.fuji-u.ac.jp/
盛岡大学 http://www.morioka-u.ac.jp/

平成23年12月1日発行